

◆ 有識者ダイアログ

当社では、2018年より外部有識者をお招きし、ダイアログを実施しています。ダイアログでは、サステナビリティへの取り組みについて忌憚のないご意見や今後に向けたアドバイスをいただき、活動に反映しています。2023年は、オンラインと対面のハイブリッドで開催しました。

新たに開発した咀嚼チェックアプリによって 取り組みがさらに加速することを期待しています

長年「噛むこと」の普及啓発に取り組まれています。新たに開発された咀嚼チェックアプリによって取り組みがさらに加速することを期待しています。私自身も家族と一緒に試しましたが、とても楽しく測定することができました。自身の咀嚼能力を知ることで、「噛むこと」と健康に関する意識が高まると思います。また、世界的なスポーツの大会で選手の方々が試合中にガムを噛んでいたシーンが目撃されています。この機会に、パフォーマンス向上や集中力アップなど、スポーツに関する「噛むこと」のメリットを訴求できたらいいと思います。カカオ豆のトレーサビリティに関する実証実験は、児童労働リスクを減らすための大きな一歩として素晴らしいと思います。フェアカカオについては、2028年目標を50%から100%へと大幅に上方修正されていて驚きました。社会的責任とコストの両立には苦労もあるかと思いますが、ロツテの努力や取り組みストーリーなどを聞いて納得しましたので、もっと社外に向けてアピールすべきです。今後は現地との対話が重要になると思いますが、ガーナで現地視察もされるということで来期でのご報告を楽しみにしています。全国食支援活動協会と協力して食品ロス削減と廃棄コスト削減を両立されていますが、こちらも素晴らしい取り組みです。廃棄コスト削減によって捻出された費用を、子ども食堂やフードバンクのサポートに活用されるのもいい取り組みですので今後の展開に期待しています。



赤羽真紀子氏

CSRアジア株式会社 日本代表

早稲田大学で政治学と生物学を修める。様々な業種の多国籍企業のCSR担当として通算10年以上の経験を持ち、スターバックスコーヒー・ジャパン(株)、(株)セールスフォース・ドットコム、日興アセットマネジメント(株)の各社で関連部署の立ち上げを手がける。2010年より現職。

アウトカムを意識して取り組みを進めることも重要です

今回で6回目のダイアログですが、内容がどんどんステップアップしていると思います。TCFD提言に沿った気候変動に関わるリスクと機会の開示など、取り組むべきことを着実に進められていると感じます。ガムの消費量が減少する中、「噛むこと」の普及で人々の健康に貢献する取り組みを進められています。キシリトール咀嚼チェックガムと咀嚼チェックアプリは、普段の食生活であまり噛まない方がどれくらい噛む力が劣っているかを手軽に測定できる良いツールだと思います。また、キシリトール先進国フィンランドを参考にキシリトールの普及に取り組んでおられますが、アプリを用いた最先端の食品ロス対策など、それ以外の分野でも北欧諸国は参考になると思います。北欧とキシリトールの親和性をうまく活用して、人々に北欧のサステナブルなライフスタイルを紹介するなど、消費者を巻き込んだ活動に期待しています。ESG中期目標達成の推進にあたっては、アウトカムを意識して取り組みを進めることも重要ではないでしょうか。例えば、食育の指標としている食育体験者数についてはアウトプットの指標であって食育を行った結果どうなったかというアウトカムも重要です。工場見学や出張授業を体験された方の一部にフィードバックとして、例えばロツテへの好意度がどのように変化したかなどを調査するとよいと思います。アウトカムの視点を取り入れると、サステナビリティ取り組みの重要性や方向性がよりはっきりすると思いますので、今後目標を見直す際に検討してみてください。



井出留美氏

ジャーナリスト、食品ロス問題専門家
令和2年度食品ロス削減推進大賞消費者庁長官賞受賞者

奈良女子大学食物学科卒、博士(栄養学/女子栄養大学大学院)、修士(農学/東京大学大学院農学生命科学研究科)。ライオン(株)、JICA海外協力隊を経て日本ケロッグ(株)広報室長等歴任。東日本大震災の際に食料廃棄に憤りを覚え、(株)office 3.11設立。日本初のフードバンクの広報を務め、2016年には食品ロス削減推進法成立のきっかけを作った。著書に『賞味期限のウソ』『食料危機』『あるものでまかなう生活』『捨てないパン屋の挑戦』(第68回青少年読書感想文全国コンクール課題図書)他。

◆ 有識者ダイアログ

噛むことは、いろんな健康につながるということをもっともっとアピールしてもいいと思います

取り組みを継続的に見せていただいておりますが、整理された5つのマテリアリティが、とても進化しており素晴らしいです。中でも重要なキーワードは「健康」だと思います。私もキシリトール咀嚼チェックガムと咀嚼チェックアプリを試してみましたが、結果が分かりやすく、「噛むこと」と歯と口の健康の重要性を再認識することができました。歯と口の健康はもちろん大事ですが、「噛むこと」が私たちの体のいろんな健康につながるということを全世代の方々にもっとアピールしてほしいですね。

また、食の安全・安心の取り組みについても注目しています。より厳しい基準のLOTTE ADVANCEの導入はもちろんですが、「みんなで品質保証」の考え方が素晴らしいです。品質保証部門に任せきりにせず、全部署全従業員で品質保証に対する意識を高め、取り組むことがとても大切です。

食品ロス削減の課題については、全国のフードバンクや子ども食堂のハブとなっている全国食支援活動協会と協力して出荷できなかった余剰製品の寄付を拡大されています。お菓子の寄付はすごく喜ばれると聞きますし、廃棄せずに有効活用できるのはとてもいい試みで、社会面でも環境面でも有意義な取り組みです。

エシカル消費では、大量生産・大量消費の時代に生きた私たちの世代よりも、若い人のほうがエシカルにとても興味を持って活動に取り組んでいるので、若い世代に向けて訴求していくといいかもしれません。

ジェンダーの視点を取り入れると社会課題に対する視野が広がります

人生100年時代のウェルビーイングを「噛むこと」で支えるのはとてもいい考え方です。人口減少と少子高齢化は大きな社会課題であり、今後の社会を維持していく上で、高齢者の健康寿命をいかに伸ばすかがとても重要です。特に人口のボリュームゾーンとなるのが高齢女性です。更年期を迎えて女性ホルモンが急激に減ることで、免疫力が低下したり、唾液量が減って歯周病菌が増えたりするなど、女性特有の健康リスクが高まると言われています。「噛むこと」にジェンダー視点から注目することで、取り組みが深化し、社会的インパクトが拡大することを期待しています。

男性の育休取得率ですが、高いスコアで素晴らしいと思います。しかし、育休取得期間も重要です。家事や育児などの「ケアワーク」をパートナー間で共に担う土台を作るのが目的だからです。そのような職場が増えれば、若い世代が求めている「共働き・共育てが可能な社会」が実現するのです。今後は部署によって異なる課題にそれぞれ対応しつつ、期間の延長も推進できるといいですね。

これらのように、ジェンダーの視点を取り入れると社会課題に対する視野が広がります。牛腸社長はWEPsに署名し、自らコミットメントを示されていることは大変素晴らしいと思います。DEIの推進と、ジェンダー視点のあるロケーションの実現は、持続的な成長の鍵になることでしょう。そのために、WEPsを活用してください。



浦郷由季氏

一般社団法人全国消費者団体連絡会*前事務局長

大学卒業後、7年間の会社勤めの後、専業主婦として子育てをしながら生協の活動に関わる。生活協同組合ユーコープ、日本生活協同組合連合会の理事を経て、2017年5月～2023年5月、全国消費者団体連絡会の事務局長を務める。厚生労働省、食品安全委員会、消費者庁などの審議会等委員も務めた。

*消費者団体の全国的な連絡組織で、くらしに関わる様々なテーマについて、審議会への委員参加やパブリックコメントの提出などを通じて消費者の立場から意見発信をしている。



大崎麻子氏

(特活)Gender Action Platform理事
関西学院大学総合政策学部客員教授

米国コロンビア大学国際関係修士(国際人権専攻)。国連でジェンダー平等と女性のエンパワメントを担当し、女性の教育、雇用・起業、政治参加等を手がける。現在は、国際と国内、公共と民間をつなぐ専門家として活動中。内閣府男女共同参画会議専門委員、ISOジェンダー平等ガイドライン国際ワーキンググループ日本代表エキスパート等を務める。「女性のエンパワメント原則(WEPs)」日本版ハンドブックを企画・制作。

◆ 有識者ダイアログ

新しい未来を先取りすると思って、
楽しみながらサステナビリティ活動を推進してください

毎年継続してダイアログに参加させていただいており、だんだん進歩していく様子がとてもよく分かります。持続可能な調達は特に重要な課題です。特にパーム油は様々な課題を含んでおり、きちんとした対応が求められます。TCFD提言に基づいた気候変動リスクと機会の開示を進められていますので、気候変動以外にも生物多様性や人権課題などの様々なシナリオを想定して、将来的な対応策を検討されるとよいと思います。また、女性管理職を急激に増やすのは難しいとは思いますが、目標をもう少し高くしてもいいかもしれません。男性育休取得率については業界をリードする高い実績で、素晴らしいと思います。今後は取得率だけでなく、取得期間にも注目して取り組みを検討してください。近年はテレワークなどの柔軟な働き方のなかでの育児と仕事の両立が可能となりつつありますので、それらを把握できる新たな指標も検討の余地があります。食と健康に関する取り組みは、定量的な指標だけでなく、どのように人々や社会に貢献していくかについて、ストーリーで説明することも有効です。説得力のあるストーリーを用いてナラティブに説明することで、より多くのステークホルダーを巻き込めると思います。また、ロツテグループのアセットをうまく活用することも検討してください。企業でのサステナビリティ活動は、コストや既存業務などと対立することもある大変な仕事と思われがちですが、本来は未来志向の取り組みなので、新しい未来を先取りすると思って、楽しみながらサステナビリティ活動を推進してください。

カカオ豆のトレーサビリティに関する実証実験は
日本のチョコレート業界にとって大きな刺激になると思います

目標を期限や数値付きで明確に設定し、社内外できちんと浸透しているからこそ着実な達成に繋がってきていると思います。人権尊重の取り組みを含め、今後のさらなる推進にも期待しています。持続可能な調達において、新たに開始されたカカオ豆のトレーサビリティに関する実証実験は、日本のチョコレート業界にとっても大きな刺激になる内容だと思いました。技術を使ってトレーサビリティを確保し課題を可視化するユニークなアプローチだと思います。さらに見つかった課題をいかに解決していけるのが重要ですので、次のステップにも期待しています。サプライチェーンにおける生活賃金や森林の問題などへの取り組みも今後進むと、事業部門や調達部門を含む全社的な巻き込みがさらに重要になると思います。社員の教育や評価基準にサステナビリティ側面を盛り込むなどして、社員がサステナブルな事業活動に取り組みやすい環境をつくっていくことも考えられます。咀嚼チェックアプリや全国食支援活動協力会との協業など、事業の特徴を生かした多様な社会貢献の取り組みを進められていて素晴らしいと思いました。マテリアリティについて詳細に説明されていますが、食と健康については具体的に誰のどういう課題について解決できるような指標なのかを社会的インパクトと共に説明すると、より多くの人にとって理解が深まると思います。



蟹江憲史氏

慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科 教授

同大学SFC研究所xSDG・ラボ代表。北九州市立大学助教授、東京工業大学大学院 社会理工学研究科准教授を経て、2015年より現職。2023年Global Sustainable Development Report 執筆の15人の独立科学者の一人に国連事務総長から選出されている。専門は国際関係論、サステナビリティ学、地球システム・ガバナンス。SDGs研究の第一人者であり、研究と実践の両立を図っている。博士(政策・メディア)



潮崎真惟子氏

認定NPO法人フェアトレード・ラベル・ジャパン 事務局長

デロイトトーマツ コンサルティングを経てオウルズコンサルティンググループにてマネジャーを務める。コンサルタントとしては人権デュー・ディリジェンス、サステナビリティ戦略、政策立案などを多数担当。「児童労働白書2020 ―ビジネスと児童労働―」執筆。一橋大学経済学部卒、同大学経済学研究科修士(地域開発)。人権・労働分野の国際規格SA8000の監査人コース修了。

ダイアログを受けて

社外からのご意見やアドバイスを反映して サステナビリティ活動と 情報開示を深化させてまいります

当社の事業は様々なステークホルダーの皆さまとの関わりで成り立っており、持続的な成長を遂げていくためには、ステークホルダーの皆さまと良好な関係を構築し、価値を共創していくことが不可欠と考えています。そこで、ステークホルダーの皆さまの意見をサステナビリティ活動や情報開示に反映するため、外部有識者の皆さまと継続的にダイアログを行っております。前回のダイアログでは、当社らしいサステナビリティ活動への期待を多くいただきましたので、ブロックチェーンを活用したカカオ豆トレーサビリティに関する実証実験や嚆む力を測定するアプリのリリースなど、独自性にこだわって取り組みを深化させております。

また、今回は目標に関するアドバイスもいただきました。当社は2048年に創業100周年を迎えます。この100周年に当社がどうあるべきかを議論し、そこに至る道筋をバックキャストिंगで考え、目標を深化させようと準備していますので、どうぞご期待ください。

佐藤利弘

株式会社ロッテ
常務執行役員



外部イニシアチブとの連携

参画している主な業界団体

全日本菓子協会	〈副会長〉
食品産業センター	
食品産業中央協議会	
日本チューインガム協会	〈会長、常任理事〉
日本チョコレート・ココア協会	〈常務理事、理事〉
一般社団法人 全国ビスケット協会	〈理事〉
全国飴菓子工業協同組合	〈名誉相談役〉
日本菓子BB協会	〈副会長〉
一般社団法人 日本アイスクリーム協会	〈副会長〉
紙製容器包装リサイクル推進協議会	〈理事〉
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会	〈監事〉
日本カイロ工業会	

イニシアチブへのコミットメント

国連グローバル・コンパクト(UNGC)
持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)
世界カカオ財団(WCF)
Science Based Targets イニシアチブ(SBTi)
気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)
自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)フォーラム
女性のエンパワーメント原則(WEPs)
ザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム
日本サステナビリティ・ローカル・グループ
TCFDコンソーシアム
クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(CLOMA)
国連食料システムサミット(FSS)
GXリーグ
10X20X30食品廃棄物削減イニシアティブ 日本プロジェクト
xSDGコンソーシアム
開発途上国におけるサステナブル・カカオ・プラットフォーム
TOKYOエシカル

外部評価

健康経営優良法人2023(ホワイト500)
環境マネジメントシステム規格ISO14001認証取得
GFSI承認スキーム(FSSC22000/BRC)認証取得